ニッケイ新聞
JORNAL NIKKEY SHIMBUN
DIRETOR PRESIDENTE RAUL M. TAKAKI
JORNALISTA RESPONSÁVEL TAKAO MIYAGUI
Rua da Glória, 332 - Liberdade
CEP 01510-000 - São Paulo - SP - Brasil
Tel (11) 3340-6060 | www.nikkeyshimbun.jp

マンデッタ 大統領からの解任危機迫れる

軍人閣僚や連邦議会が猛反対
隔離反対の候補に交代寸前

ボウソナロ大統領は6日、新型コロナウイルス対策で意見が対立するルイス・エンリケ・マンデッタ保健相を解任する直前まで行ったが、断念した。その裏には、軍人閣僚や連邦議会の強い反対があり、国民の76％から支持を得ている保健相の解任は阻止された。マンデッタ氏は同夜、職務の続行を宣言し、大統領の圧力に屈しない意思を表した。6日付伯字サイトなどが報じている。

6日のマンデッタ保健相
（Marcello Casal Jr/Agência Brasil）

職務続行決定直後にも対立

「ボウソナロ大統領が今日にもマンデッタ氏を解任」との報は、6日の16時過ぎに伯字サイトに一斉に流れ、緊張感が走った。報道によると、後任には前市民相のオスマール・テラ氏らが考えられていたようだ。

テラ氏は4日にツイッター上で、「外出自粛令（クアレンテーナ）を実施している国では効果を表していない」とデータを示しながら発言。社会的批判を受けた上、投稿を削除されたばかりだ。そのため、国民の間では「社会的隔離政策を強制的に終わらせるのでは」との不安が高まり、ツイッター上では同件に関する話題が、短時間に数10万件上がった。

実際、ボウソナロ氏はこの日、テラ氏や大統領が推薦する医師たちとマンデッタ氏抜きの会合を行っており、夜にでも大臣交代が発表されるのではと報じられていた。だが、それは起こらなかった。

ヴェージャ誌の報道によると、解任を阻止したのは、ヴァウテル・ブラガ・ネット官房長官とルイス・エドゥアルド・ラモス大統領府秘書室長官といった軍人閣僚で、6日午後、ボウソナロ大統領と話し合いを行った末に断念させたという。陸軍はすでに、マンデッタ氏の提唱する社会的隔離（デスタンシアメント・ソシアル）に賛成の立場を表明していた。ダヴィ・アルコルンブレ上院議長もこの日、ラモス氏に、「連邦議会はマンデッタ氏解任に反対だ」との旨を伝えていた。

また、この日に外出自粛令の期間延長を宣言したジョアン・ドリア聖州知事も、「マンデッタ氏はこの危機を乗り越えるのに不可欠な存在」とその重要性を説き、連邦検察庁が社会的隔離を守らないボウソナロ氏を法的に訴える準備を始めたと報じられるなど、あらゆる方面からマンデッタ氏への支持が示された。

マンデッタ氏はこの日の夕方、大統領と会談し、正式に職務の継続が決まった。

だが、この会合でも両者の関係にはすれ違いが見られた。同日夜の記者会見でマンデッタ氏が明かしたところによると、会合後、大統領側の医師2人からヒドロクロロキンをコロナウイルスの治療薬に推薦する大統領令に署名するように依頼された。だがマンデッタ氏はそれを断ったという。

東西南北

6日のマンデッタ保健相の解任か否かを巡る騒ぎは伯国中でかなり大きな話題となり、国内のみならず、全世界のツイッターの話題ランキングでも、トップに達していたという。しかも、その日の1位を争ったのは、イギリスのボリス・ジョンソン首相の新型コロナウイルスの悪化での集中治療室入院の話題だったというから、コロナに関する政治家の話題でツイッター上の噂が持ちきりになった、ということになる。世界には、ツイッターの話題ランキングの上位をチェックする人もいるので、これでマンデッタ氏の名前を知った人も少なくないのでは。伯国でのコロナ対策をめぐる争いがマイナス・イメージで世界に伝わらないことを願うが。

◉

7日、日本でも遂に緊急事態宣言が発令されたが、伯国の報道では、これはボウソナロ大統領支持派に不利だと言われている。なぜなら、これまでボウソナロ派の人たちがネット上での議論の際に隔離政策をしないことを主張する際に、「あの国だってやっていない」の例に頻繁に出されていたのが日本だったからだ。また、同様に社会的隔離を行っていなかったスウェーデンも1日の死者が100人を超えて方向転換を迫られている。もはや、隔離は世界的に避けられないものに。

マンデッタ保健相が7日に、コロナのピークは4月から5月になりそうだと発表した。このタイミングで聖州やリオ州をはじめとした州や市で隔離政策延長が発表され、この政策を支持する世論が強まっているのは幸いか。みんなで心を合わせて、感染拡大を少しでも食い止めたいところだ。

◉

マナウス市

公立病院の収容能力限界に
コロナ感染拡大で医療崩壊へ

【既報関連】新型コロナウイルスの感染拡大が急速に進み、保健省が4日に感染爆発が懸念されるとした5州の一つ、アマゾナス州で、医療崩壊が起き始めたと6日付G1サイトが報じた。

事態がより深刻な州都マナウスではアルトゥール・ヴィジリオ・ネット市長（民主社会党）が6日、公立病院の病床は満杯で、これ以上のコロナの感染者受け入れは出来ない事を認めた。同市最大の州立デウフィナ・アジス病院は過密状態で、解決方法さえみつからない状態だという。

一方、同州保健局は、同病院の収容率は95％で、現状はまだ満杯ではないという。ただし、数日中にこれ以上患者を受け入れられない状態になる可能性は認めた。

州政府は1年前、現状緩和のために400床の病院を借りたが、改修工事が遅れていた。集中治療室25床に心拍数などなどをチェックするモニターや人工呼吸器などを入れる作業を加速化し、10日以内にこの病院を稼働させるという。

医療崩壊を防ぐ鍵は感染拡大の抑制である事を示すカーブ
（6日の保健省の感染報告にて、Anderson Riedel/PR）

同州では3月16日に最初の感染者、3月31日に最初の死者を確認。最初の感染者確認から23日目の6日の感染者数は532人で、死者は19人だ。保健省が4日に発表した10万人あたりの感染者数（感染率）6・2は、12・8に急上昇している。

同州の医療崩壊（少なくとも州都での新たな患者収容不能）は、2～3日で感染者数が倍増する感染爆発状態に陥った事が原因だ。同州の3日現在の感染者数は260人だから、3日間で感染者数は倍以上になった。

保健省や知事達が外出自粛を含む社会的隔離策を推奨しているのは、感染爆発が起きて医療崩壊が起きると、医療関係者や病床の不足が起き、患者が適切な治療を受けられなくなり、死者も増えるからだ。同州の感染者は4日に20％、5日に34％、6日も28％増加。死者も、4日に71％、5日に17％、6日に36％増えている。

保健省は同州の感染率が高い事に言及した際、マナウス市にはフリーゾーンがあり、工業生産や商業活動が盛んなために国内外からの人の動きが大きく、感染が拡大しやすいと指摘していた。

マナウス市では、広報車で自宅に留まるよう呼びかける一方、警官を路上に派遣し、商店閉鎖を徹底させたりしている。

だが、マナウス市の例は発端に過ぎない。ルイス・エンリケ・マンデッタ保健相は3月、4月中に全国で病床不足が起きると発言。聖市も2日、4月後半に病床不足が起こり得ると発表した。

緊急援助金

受給申し込みサイト開設
支払いは最速で9日にも

【既報関連】連邦貯蓄銀行（Caixa）は7日、非正規雇用者らに支給される緊急援助金の申し込みサイト（https://auxilio.caixa.gov.br/#/inicio）と、アプリを発表した。同日付G1サイトが報じた。

緊急援助金は月額600レアルで、3カ月間支給される。個人零細企業家（MEI）、連邦政府の社会プログラム、カダストロ・ウニコ（CU）に登録していない非正規労働者、個人でINSSを負担している人々は、サイトか携帯用アプリを使って申し込む必要がある。ボルサ・ファミリア（生活扶助）受給者や、CUに登録済みの人はサイトやアプリから申し込む必要はない。

Caixaは、緊急援助金の受け取り条件や申し込み方法についての相談を電話で受け付けるための窓口も開いた。番号は111だ。ただし、この電話では申し込みを行うことは出来ない。

また、オニキス・ロレンゾーニ市民相は7日、非正規雇用者への緊急援助金、月額600レアルの3回分割払いを9日にも開始する可能性があると発表した。

9日に受け取れるのは全員ではない。最初は、CUに登録済みで生活扶助を受け取っておらず、伯国銀行（BB）の口座か、連邦貯蓄銀行（Caixa）の貯蓄口座（ポウパンサ）を持っている人で、CUに登録済みで生活扶助を受け取っていないが、これらの銀行に口座のない人は14日からの受け取りとなる。CUに登録してない人は登録後5営業日から、生活扶助受給者は、ボウサの支払日以降に受け取りが可能となる。

「Caixaに正確なデータを伝えたら、直ちに支払いの手続きに入るから、9日には振り込みが始められると思っている」と市民相は語った。

COVID-19

感染1万3717人、死者667人
条件付き隔離政策緩和も

【既報関連】伯国内での新型コロナウイルス感染症（COVID―19）の感染は広がり続け、7日午後5時すぎ時点での保健省の発表では、国内感染者は、1万3717人、死者の数は667人となった。そんな中、保健省が来週から一部の市では条件付きで社会隔離政策の緩和を認める方針を示した。7日付伯字各サイトが報じている。

保健省は6日、病床の半分以上が空いており、患者対応能力に50％以上の余力がある市や州は、13日から社会隔離政策の制限を緩和することを認めると発表した。

これにより、来週の時点で患者受け入れ能力に余力がある自治体は、広範囲社会隔離政策（DSA）から、選択的社会隔離政策（DSS）に移行する可能性がある。

DSAとは、年齢や持病のあるなしなどの区別なく、原則的に全ての市民が外出自粛令の対象となる政策で、DSSは、60歳以上の高齢者や慢性疾患の患者など、新型コロナ感染症（COVID―19）にかかると命の危険性が高い市民（ハイリスクグループ）以外は自由に移動できるという政策だ。伯国では現在、DSSを採用している自治体は一つもない。

保健省の報告書では、国内では人工呼吸器の数も、呼吸理学療法やCOVID―19の重症患者の臨床管理能力を持つ医療専門家も不足していると指摘されている。

また、伯国全体で見た場合、集中治療室および通常の入院用の病床も、COV―D―19の感染爆発に対応できるほどは用意されていない。

保健省は翌7日、国内のCOVID―19感染状況、取り組みとその効果を検証したレポートを発表。「伯国では感染拡大を食い止めるため、社会隔離政策を主軸とする対策を講じているが、感染者はまだ数カ月間増え続ける」とした上で、流行のピークは4～5月だが、ウイルスの蔓延は9月中旬まで続くとの見通しを記している。

レポートでは、「感染増加ペースを抑制し、医療現場の受け入れ能力を大幅に超えることがないようにすることと、経済的影響を最小限に抑えること、この二つを両立するため、社会隔離政策は取られている」と記述。マスクや挨拶の習慣に関しても、「アジア諸国ではマスクの使用は文化的に受け入れられているが、伯国ではそうではない。逆に、伯国では一般的な、抱擁や頬への軽いキスなどの挨拶はアジア諸国では見られない。こうした要因がCOVID―19の感染拡大に影響を与えている可能性がある」とした。

また、7日付フォーリャ紙が報じた世論調査の結果によると、4％は外出自粛令に全く従っていない。出勤その他の目的で外出しているは24％で、完全に外出自粛令に従っているが18％、食料品や医薬品の購入など、必要不可欠の場合にのみ家を離れているは54％だった。

コロナウイルスに対する警戒の度合いについての質問には、警戒しすぎが19％、心配しなさすぎが46％、警戒の度合いは適切が33％、分からないは2％だった。

また、76％は「最も大事なのは人々が家に留まること」と答えたが、「外出自粛令を解いて欲しい」が18％、「分からない」が6％いた。

ブラジリアの地下鉄では消毒作業も行われている
（参考画像・Acacio Pinheiro / Ag. Brasília）

「一切家から出ていない」は18％

PSDB

新たな収賄工作疑惑浮上
高速道建設に関し18年間も？

アンシエッタ／イミグランテス高速道の建設運営を行った企業エコヴィアスが、18年間にわたり、12の契約で贈収賄工作を行っていた疑惑を聖州検察局に対して認めていたことがわかったと、7日付伯字サイトが報じている。

不正行為が行われたのは1998年から2015年にかけてで、いずれも、マリオ・コーヴァス氏、ジェラウド・アウキミン氏、ジョゼ・セーラ氏ら、PSDBの知事の時に起こったものだという。

同社によると、カルテルが始まったのはコーヴァス氏が知事だった時代で、それは今も継続しているという。また、同社の他に11社が計画に関与したとの証言もなされている。

エコヴィアス社がこの間に支払った賄賂は6億5千万レアルに及ぶ。その内の4億5千万レアルは建設に関するもので、1億5千万はペダージオ（通行料）に関するもの。残りの5千万レアルは罰金に関するものだったという。同社は補償を約束している。

PSDB側は、「法には従っている」として、疑惑を否定している。

本紙レジストロ連載がポ語に！
日本人殖民の一世紀に記録と取材で迫る
se o grão de arroz não morre
邦題『一粒の米 もし死なずば』
特別価格 R$50
ご注文お問い合わせ 詳しくはニッケイ新聞社編集部まで。郵便でのご注文の方は、太陽堂、フォノマギ、高野書店でどうぞ
●ニッケイ新聞社 ☎11-3340-6060 ●太陽堂 ☎11-3208-6588 ●フォノマギ竹内書店 ☎11-3104-3399 ●高野書店 ☎11-3209-3313

世界の人々を魅了するお馴染みの「日本のもの」から、日本人も知らないような驚きの「日本のもの」まで
世界に誇る日本製品97種をポルトガル語で紹介
ポルトガル語世代の子や孫、日本のハイテク製品に関心のあるブラジル人、ビジネスパートナーや友人へのプレゼントにぴったり!!
世界の暮らしを便利にした「日本のもの」
世界に安心・安全をもたらした「日本のもの」
世界の食文化を変えた「日本のもの」
世界の産業を変える「日本のもの」
世界を魅了する「日本のもの」
世界のインフラを整備する「日本のもの」
世界の未来を担う「日本のもの」
特別価格 R$40
ニッケイ新聞社編『世界が感謝！「日本のもの」』（「ニッポン再発見」倶楽部著、三笠書房、2015年）のポルトガル語翻訳版『O MUNDO AGRADECE! COISAS DO JAPÃO』舎出版、2019年
ご注文／お問い合わせ 詳しくはニッケイ新聞社編集部まで。郵便でのご注文は太陽堂、フォノマギ、高野書店でどうぞ。
ニッケイ新聞社 ☎11-3340-6060 | 太陽堂 ☎11-3208-6588 | フォノマギ竹内書店 ☎11-3104-3399 | 高野書店 ☎11-3209-3313

日伯友好病院 コロナ患者が殺到して満床

５階を専用に、人工呼吸器不足
ベッド空くまで暫定設備で対応

「日伯友好病院では、１つの階を全てコロナ患者用に対応していますがすでに満床で、人工呼吸器も足りない状態です」――６日に前園マルセリーノ日伯援護協会事務次長に電話取材を行ったところ、このように現状を説明した。「新型コロナウイルス（COVID―19）の感染拡大により、患者が殺到しているという。平常時なら同院の占床率は７０～８０％ほど。通常でも満床の場合は他医院へ紹介する形をとっているが、「この状況では他の病院も満床なのではないでしょうか」と懸念した。

日伯友好病院の満床掲示

院内にポ語で「病床が満床」と赤字の掲示が出され、次のように書かれている。

《患者、同伴者の皆さま、コロナウイルスの関係で全ての病床が一杯になっています。

当院は、拡張工事による業務拡大を図ったにも関わらず、本来の受け付け体制を上回る患者を受け入れております。重症者を含めて新しい患者の皆さまには、ベッドが空くまで、暫定的な受け入れ設備で対応させてもらっています。

国全体において、医療従事者、医療消費材、医療設備が不足した困難な状況の中で、我々はできる限りの対応をし、良いサービスを求めて努力しております。

患者の皆さまには、できる限り、医療保険が適応される他の医療施設を探すようにお願いします》

友好病院に入院している患者のほとんどは非日系人で、聖市北部やグアルーリョス市などの近隣地域住民だという。コロナ感染検査はラボに注文する形で行う。前園さんは「検査するためのキットも足りていないと話に聞いています」と現場の切迫した状態を語った。

また聖州政府主導でパカエンブー・スタジアムとアニェンビー国際展示場に、新型コロナウイルス罹患者用の臨時病院が建設された。パカエンブーでは既に受け入れが始まっており、「コロナウイルス罹患者で呼吸器などの必要がない中等症の患者が、そちらで受け入れるようになるのでは」と今後の動きについて話した。

パカエンブーの臨時病院は６３００平方メートルの面積を有し、わずか１０日間で設置された。２００床設置されており、うち８床は合併症がある患者のための集中治療室となっている。

アニェンビーは１８００床分設置予定で感染ピークに達する時期までに完成させるべく準備を進めている。臨時病院までフル稼働という事態にはならないでほしいところだ。

在聖日本国総領事館は１０日、２１日に休館

在サンパウロ日本国総領事館（野口泰総領事）は４月１０日（金）が聖金曜日、２１日（火）がチラデンテス記念日のため休館となる。

□休刊のお知らせ□

１０日（金）がパイション・デ・クリスト（キリスト受難日）の祝日のため、本紙１１日付（土）は休刊となる。次の刊行日は１４日（火）付。

□コロナ禍 緊急日誌□

「新聞を読みたいのですが、コンピューターもスマホもやらないんです。なんとかなりませんか？」。そんな電話が編集部に毎日かかってくる。「本当に申し訳ありません」と電話口で、毎回頭を下げる。だが２５日付から印刷版を停止して、ＰＤＦ版とサイト（nikkeyshimbun.jp）の記事だけを更新している。そんな電話が来たときにお願いするのは、「息子さんや娘さんのＥメールアドレスを教えて下さい。そこにＰＤＦ版をお送りしますから」ということ。多くの読者は子どもと同居している。彼らが受け取ってくれれば、コンピューター画面などで見てもらえる。

◎

孫やひ孫のＥメールでも、友人のでもいい。Ｅメールがあれば瞬時にそこに送れる。スマホでも読める。読者の皆さんも、まだこのＰＤＦ版を読んでいない知り合いの一世がいたら、ぜひ教えてほしい。未曾有の非常事態ゆえに、正確な情報を日本語で素早く知ることは何よりも重要だ。「このＥメールに送ってほしい」との要望があれば、編集部メール（redacao@nikkeyshimbun.jp）まで。

コロナ感染

ついに東洋街でも犠牲者
食材店「東亜」店主が死亡

聖市役所関係者によれば、リベルダーデ日本広場にある台湾系の食材店「東亜食品公司」の店主が、コロナウイスル感染症の悪化により、４日（土）に亡くなった。

フランスから帰国した店主の従兄弟が感染者だったらしく、２週間の検疫期間を置かずに、彼の歓迎会を店主のシャッカラ（別荘）で開催し、１２家族が集まった。そこから感染者が広まったと見られている。

食材店「東亜」の店主と同じアパート（リベルダーデ大通り）に住む高齢の日本人女性は、「東亜の店主が亡くなったと聞いて、本当にビックリした。外も怖くて歩けません」と語っている。

感染者が出たことから４日午後５時過ぎ、リベルダーデ日本広場からガルボン・ブエノ街一帯が市衛生局によって消毒された

【読者レポート】コロナ禍を逆利用？

聖市在住　大阪　次郎

新型コロナウイルスの影響で、世界中がドエライことになっている。サンパウロ市では周知のとおり、３月２４日（火）から４月７日（火）までの２週間、外出自粛措置が取られ、これが４月２２日まで延長されることになった。

最近では、テレワーク（在宅勤務）という言葉がメディアをにぎわせるようになり、コロナ対策の一環として会社に出勤せずとも、自宅に居ながらパソコンなどを通して仕事をしている人も少なくないようだ。

私自身、このテレワークを実践しているが、どうしても自宅で長時間にわたって仕事をしているとテレーッとして、だらけてしまうことが多い（これが本当のテレワークか？）。反面、外部から余計な電話があまり掛かってこないため、一定の時間は仕事を集中してできるメリットもある。

外出自粛措置が取られてからは、基本的に自宅にこもっていることが多い。しかし、食料品の買い物など「有要有急」の事態がある時は、マスクを付けて外出せざるを得ない。外出中は出来る限り、人気の少ない場所を通り、前から人が歩いてきたら、ギリギリですれ違わず、その人と数メートルの距離をあけたり、道路の向こう側に渡ったりするなど工夫している。

帰宅後はすぐ、石鹸を付けての念入りの手洗いとうがいを行い、さらに鼻の穴から水を吸い込んでの「鼻の洗浄」も実践。また、アルコールのスプレーを手に付けてこするほか、ドアノブなど帰宅後に手で触れた場所をアルコールで拭き取るなどして消毒している。

自宅に留まることが増えて困るのは、運動不足になりがちなことと、大好きな野外での写真撮影がやりにくくなったことだ。しかし「物は考えよう」で、自宅でもある程度、自主的なトレーニングはできる。両手を広げられるほどの空間があれば、腕立て伏せ、スクワット（膝屈伸）などができ、ベッドの上ではストレッチ、腹筋や背筋などの運動も可能だ。

写真撮影も行動範囲が狭くなったのは寂しいが、買い物に出かける時にカメラをリュックに入れて持ち歩き、人影が少なくなったの珍しいサンパウロの風景などを短時間ながら撮影している。

以前に比べて格段に便利になったのは、インターネットおよびＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の普及により様々な情報が吸収でき、外出しなくてもブラジル国内をはじめ、日本や世界中の友人たちとコンタクトが取れるようになったことだ。

同じように自宅でこもっている人たちと近況を知らせ合い、音信不通になっていた昔の友人たちと改めて連絡をとり合うことができる喜びがある。昔の日本移民が情報不足などで混迷を極めたことを思えば、コロナ禍であっても現在ははるかに恵まれている。新型コロナウイルスが収束しても、前述のテレワークは今後も継続されていくと思う。

今回の外出自粛措置を逆利用して、過去の写真や資料の整理など、これまであまり行なっていなかったことをやろうと思っている。しかし、面倒でなかなか手が付けられないこともある。以前から「自宅の大掃除をしなければ」と家族から言われているのだが、いつ実行に移せるかは「神のみぞ知る」といったところか。

コロナウイルス感染抑止のために出た外出自粛令下で、ガランとしたガルボン・ブエノ街（大阪次郎氏撮影）

ＧＬＡ２０２０新春の集い
「ブラジルにも役立つ教え」

ＧＬＡブラジル支部（尾田嘉雄理事長）は、日本語による『２０２０新春の集い』ビデオ講演会（ポルトガル語音声通訳付き）を３月１日（日）に、聖市パライゾ区の同会館で開催した。会場には約１００人を越える会員が集い、懇親会などを通して気軽に教えに触れる機会となった。

講堂の画面には、高橋氏の《新たな年の始りは１歩を踏み出す時。無垢のキャンパスにヴィジョンを描き、目盛りをゼロに戻して再スタートを切ろう》とのメッセージが表示された。

今回のビデオ講演は１月２６日にパシフィコ横浜で開催された「新年の集い」を録画したもの。転生の４つのテーマとして「魂の修復と成長」「関わりの再結」「志半ばの願いの成就」「人々や場の照らし」などについて説明した。さらに、ＧＬＡの提唱する教えで人生の危機を乗り越えた会員のエピソード等を通して《『空の心』による暗示の帽子の脱ぎ方》が映像で紹介された。

最後に尾田理事長が「コロナウイルスがブラジルにも広まる中、この会館で共に魂を研く体験をする、忘れられない新年の集いになりました。これからもこの会館を訪ねて、先生の映像を見て人生の在り方を共に探っていきましょう」としめの挨拶をし、拍手が送られた。

挨拶をする尾田理事長

ビデオ講演中、熱心にメモをとっていた村松仁志さん（７７、福島県）に話を聞くと、「この教えはブラジルでもとても役に立つ。どうしても許せない人がいたが、餓鬼に囚われていた心を開放し、人間関係を作りなおしたら普通に話ができるようになった。すごいことだと思う」としみじみ体験を語った。

ゴイヤス州で４０年間、養鶏を営んでいたが、妻の治療のために土地をすべて処分し、現在は聖市に住んでいる。

会員の松村豊雄さん（４９、三世）は「哲学や心理学からのアプローチで、現実の問題を解決する。宗教臭くないのが特徴。このような考え方が広まれば、きっとブラジル社会は良くなると思う」と頷いた。

大耳小耳

１０日の聖金曜日（受難日）から２日後、１２日の日曜日には復活祭（パスコア、イースター）となる。このキリスト教の祝日は、日本でも最近は東京ディズニーランドが季節限定イベントで取り上げているためか知名度が上がっている。ネスレ日本株式会社は「イースターの本場」として、なぜかブラジルからチョコを直輸入して大手通販サイトを通して数量限定で販売している。商品特集サイトも開設し、ＳＮＳでも「おうちでイースターパーティーはいかが？」とキャンペーンをして気合が入っている様子だ。今年、当地のパスコアは、コロナのおかげでチョコが売れなくて困っている様子。来年は日本にもっと輸出する？

正民

Jorge J. Okubaro

正輝、バンザイ――

保久原淳次ジョージ　中田みちよ・古川亨子　共訳

原作 Bauru MASAO NOME

正輝は１９５４年１２月３日、書類に署名し、弁護士の事務所の隣のプラッサ・ダ・セー２９１番地のサンパウロ第５登記所に登録した。

正輝のの尋問書にはこう書かれている。

「これまでの調査で指摘された証拠について尋問されたとき、証拠は正しくなく、証言人も知らず、それ以外申し立てることはないと答えた。訴訟の時期、アララクァーラの臣道聯盟の支部的役割をしていた機関を通じ会員となったが、そこで指導的役割をしていたわけではなく、単なる会員だった。入会の理由はすでに会員だった友人たちの勧めによる。

臣道聯盟の目的は祖国への愛国心を養うというもので、日本人の生命や所有物を脅かすことではない。よって、日系社会に対し、サボタージュやデモをしたことはない。その証拠に住居地ではそのようなことは一度も起っていない。１９１８年からブラジルに住み、ブラジル国籍の子弟が８人おり、この国を愛する者である。故郷で小学校を出た学歴もあり、本人も子弟もカトリック信者だ。その他の犯罪歴はない。被告弁護の機会を求め、それが受理された」

書類にはタイプを打った書記と、保久原正輝本人、モアシール・マンシオ・デ・トレード弁護人、通訳のジョゼ・サンターナ・ド・カルモが署名した。

尋問の翌日、トレド弁護士作成の臣道聯盟訴訟の委任状とサントアンドレ裁判地区のウンベルト・デ・アンドゥラーデ・ジュンケイラ判事が署名した督促状そして、トレド弁護士署名の答弁書を加え、裁判所で証言するため弁護士を通して提出した。

正輝の無罪を証明する多くの論拠があったにも関わらず、奇妙なことに弁護士は専門的、司法的手法でひとつの論拠に絞った。しかも、最後の一部に書きこんだ。検察局の告発によれば、罪を問われる論拠は皆無だ。ところが、弁護士はその問題に全く触れなかった。判事を説得させるために別の方法をとった。それは正輝がごくふつうの庶民であり、勤勉で、子弟の教育に力を入れているということを強調したのだ。

まず、弁護士は正輝がアララクァーラからサントアンドレに移ったため裁所所に出頭が遅れたことを説明した。そして、正輝の証言からいくつかの点をひろいあげた。そのなかの一つは臣道聯盟は祖国を愛する同胞の集まりであって、悪事を目的とする集まりではない。正輝はテロ行為に参加したことはなく、また彼の居住地では一度もそのような問題は起こったことがない。

（240）

穀物　パンデミック下でも堅調

わずかな値下がりにとどまる
コーヒーとジュースが助ける

新型コロナウイルス（COVID―19）のパンデミックで混乱に陥った国際金融市場の影響は受けはしたものの、大豆とトウモロコシというブラジルの主要輸出農産物の相場は、3月に、目まぐるしい状況の変化に耐えてシカゴ商品取引所でわずかに値下がりしただけにとどまり、ブラジルの生産者にとってはドル高レアル安がその値下がりも補って余りあるものとなった。ニューヨーク商品取引所では、砂糖相場と綿花相場が同様の幸運には恵まれず値下がりし、また、原油相場も急落したが、コーヒーとオレンジジュースの相場は消費に対する悲観的要素が相対的に小さな状況で相場を維持、値上がりする局面も見られた。

中国の景気回復に期待

ブラジルの大豆

先物契約をベースにしたバロール・ダッタの集計に基づくと、シカゴ商品取引所で大豆相場は0・5％の値下がり、平均では前月比2・5％値下がりした。トウモロコシの場合、3月の値下がりは6％強で、月平均は5％強の値下がりだった。これらの穀物は、食品や飼料のベースになるため、先進国から新興国まで、様々な国の経済活動が混乱する状況でも、そうした状況変化により大きな抵抗力を持つ。

食品分野の基礎品目というだけでなく、中国の経済活動が回復の兆候を示していることもあり、生産者らは引き続きポジティブなシナリオを構想している。米国農務省（USDA）に発表でも、ブラジル国内では2019／20農年に機構問題から縮小したトウモロコシと大豆の作付面積が2020／21農年に回復すると予想する。USDAは、トウモロコシの作付面積が8％、大豆の作付面積が10％拡大すると予想している。アメリカ国内でも、3月1日時点のトウモロコシと大豆の備蓄量は前年同日と比較して、それぞれ8％増と17％増という。

ブラジルが輸出し、ニューヨーク商品取引所で扱われる「ソフト・コモディティ」の場合、先行きはやや不透明で、値動きはコロナウイルスの流行がどの程度の期間にわたって継続するかに左右される状況だ。

しかしながら、少なくとも3月は、コーヒーとオレンジジュースは「下げ潮」に逆行して値上がりした。コーヒーの場合は在宅の消費で消費の落ち込みの抵抗力になると期待されており、オレンジジュースの場合は、予防薬としての「ビタミンC」効果への期待から消費されて値下がりへの抗力となっている。

バロール・ダッタの集計に基づくと、コーヒーは月間ほぼ9％も値上がりしており、平均相場も2月を9％上回った。冷凍濃縮オレンジジュース（FCOJ）で見たオレンジジュースの相場も、月間で25％値上がりし、平均相場は前月比5％の値上がりだった。

（1日付掲載）

ブラジル ビジネス B-side

バーレ　現金預金を50億ドル強化
コロナのパンデミックの対応策

バーレは3月24日、新型コロナウイルスのパンデミックで先行きの不透明感が高まっていることに対して、新たな対応策を発表した。そのひとつは、銀行との当座繰り越しの一種であるリボルビング・クレジットから、50億ドルを引き出すことだ。この資金には特定の使途を設定しておらず、引き受け会社である商社のバーレ・インターナショナルが、現金預金として保有、回転資本として使用する。不測の状況悪化に備えた緊急準備金として扱われる。もうひとつの取り組みは、国内のサプライヤーに対する一時的支援だ。

バーレのルシアーノ・シアニ・ピーレス最高財務責任者（CFO）は、「当社の関心は、経済活動が再開した場合に、誰もがその回復を支援する準備を整えている状態を保証するため、バーレ周辺のエコシステムを健全に保全することだ。バーレは、生産と良好な生産に依存しており、サプライチェーンを健全に保全することに強い関心を持っている」とコメント。

したがって同社の狙いは、サプライヤーの財務状況を、この状況下で健全に保つことにある。このため同社は、1億6千万レアルを中小企業に対して支援する。また同社は、サービスおよび資材の支払いを、インボイスの期日前に行う方針だ。全国1千社以上が恩恵を受けるという。

さらに今後30日間、同社は、中小のサプライヤー3千社に請求されるサービス、および資材の支払い期間を最大で85％短縮する。

（3月25日付掲載）

PIM-PF　20年2月に0・5％増
コロナの影響は3月からか

ブラジル地理統計資料院（IBGE）は1日、月例工業物理生産量調査（PIM―PF）で2020年2月は前月比0・5％増（季調済）を記録したと発表した。

バロール・ダッタが、金融機関など29社から集めた予想の平均は0・5％減で、下は1・7％減から、上は0・3％増で、今回はこの上限を上回った。

また、今回の発表に合わせてIBGEは2020年1月に関して、前月比0・9％増としていたものを1・2％増に訂正した。2019年12月も、前月比0・8％増としていたものを0・9％減に訂正した。

2月の工業生産を前年同期と比較した場合、0・4％減だった。1―2月では0・6％減、過去12カ月では1・2％減だ。

複数のアナリストが、新型コロナウイルスの影響が工業生産に現れ始めるのは3月からだと予想していたが、IBGEの

2月浮動Qに失業率11・6％

ブラジル地理統計資料院（IBGE）は3月31日、2020年2月末を終了期とする四半期（19年12月―20年2月）の失業率が11・6％を記録したとする、継続的全国家庭サンプル調査（Pnad）の調査結果を発表した。

11・2％だったその前の期（19年9―11月期）を0・4％ポイント上回る水準で、前年同期の12・4％は下回った。

総失業者数（14歳以上で、調査対象となった週に職を見つけることができず、求職中の人）は、1234万3千人だった。これは、その前の期を4％（47万9千人）上回り、前年同期を5・4％（71万1千人）下回る規模。

総就業者数（被雇用者と雇用者、公務員、自営業者）は、9371万人。その前の期と比較すると、0・7％（70万6千人）減、前年同期比2・0％（183万人）増だった。

（3月31日付掲載）

アルミ　生産のだぶつきに直面
コロナによる需要落ち込みで

新型コロナウイルスのパンデミックにより、重要な顧客が生産を停止するなどしていることで、アルミニウム工業が、数千人規模で雇用を失いかねない供給過多に直面している。コンサルティング会社のCRUによると、自動車や飲料缶の製造などに使用されるアルミニウムに対する需要は、2020年に8％落ち込む見込みだ。

PSA・プジョーシトロエンやフォルクスワーゲン（VW）、フォードといった自動車メーカーはすでに、検疫隔離措置と自動車需要の落ち込みに伴って欧州と北米で生産を縮小している。

その結果、世界のアルミニウム生産量は2020年に消費量を600万トン上回る可能性がある。仮にアルコアとリオ・チントを含む大手アルミニウムメーカーが早急に炉を停止すれば、その痛手は400万トンで済む可能性がある。

こうした数字を考慮すると、ほぼ10年前に390万トンに達するだぶつきが発生した国際金融危機の状況と同様、今回もこの余剰の消費に数年を費やすことになる模様だ。CRUは、「世界的に大規模な供給過多が発生する。それは避けられないだろう」としている。

（3月31日付掲載）

新規の工場建設計画に暗雲
パルプ業界で２００億レの打撃

新型コロナウイルスのパンデミックが、ブラジル国内の紙パルプ業界が進める、少なくとも200億レアル規模の新規工場計画にも打撃を与えている。クラビンは、3月23日、プーマⅡ号プロジェクトの公示に関連した作業を一時的に停止すると発表した。

バロール紙が、業界のその他のプロジェクトも確認したところ、レンジングとドゥラテックスが、ミナス・ジェライス州で可溶性セルロースの生産を目的に設立した合弁会社LDセルロースが同様の方向に傾いており、工事の中断を数日内にも発表する見込み。またRGE傘下のアジア系企業ブラセルも、新工場の建設を棚上げした。関係者によると、中国で組み立てられる設備の納入に遅れが生じているのが原因だとしている。

ただし、バロール紙が取材した限りでは、計画が撤回されたものは1件もない。しかし、いずれの計画も、パンデミックの影響及び隔離検疫政策の影響で、今後の見通しが不透明なため、当初の日程を遅らせている。

クラビンによると、「パンデミックに関連して矢継ぎ早に対策が講じられており、国内の保険活動及び経済活動が正常化するまでの期間についても見通しが立たない状況下で、現時点で講じられた対策のプロジェクトの日程及び予算に与える影響を計測することが不可能だ」としている。

（3月24日付掲載）

リオ州
約100億レアルの経済的損失
債務返済も不可能な状態に

新型コロナウイルスの感染拡大と原油相場の値下がりを受け、リオ州政府は、2020年の州財政に100億レアル規模の経済的損失が及ぶと予想している。州財務局が推算しているもので、商品サービス流通税（ICMS）の納付額が35億レアル減（8％減）、石油、および天然ガスのロイヤリティ、および特別参加税は40億レアル減と予想している。リオ州財務局はさらに、前政権が署名したロイヤリティの証券化契約に関連した費用に関して増加した25億レアルも考慮している。

州政府の財源に100億レアルの影響が発生することは、言い換えると、2018年12月に州議会が可決した年次予算法（LOA）で、2020年に想定した純収入全体に対して、ほぼ14％に相当する落ち込みが発生することを意味する。

「9月に連邦政府への債務の返済で大きな問題を既に抱えているというのに、それを不可能にする新たな問題を抱えることになった」と同州のルイス・クラウジオ・ロドリゲス・デ・カルヴァーリョ財務局長はコメント。

リオ州は州財政救済制度（RRF）の適用を受けている唯一の州で、2017年に連邦政府と交わした同制度適用に伴う財政救済に関する合意に基づき、2020年に23億レアルを返済する必要に迫られている。

歳入の不備を補うため、同州はすでに、予算法で想定していなかった事態が発生したことによる歳出削減として、38億レアルの凍結を計画している。現在の危機が発生する以前、2020年は100億レアルの予算削減を計画していた。その内23億レアルは連邦政府に対する債務の返済、39億レアルはBNPパリバス銀行から受けた融資の返済に割り当てることを目的にしていた。

リオ州のルイス・クラウジオ・ロドリゲス・デ・カルヴァーリョ財務局長

この二つの支払いは、いずれも、リオ州政府が支払い期限の延期に向けて交渉している。これにより、リオ州政府は2020年に、これらの清算に対する義務的経費の財源を確保する必要がなくなった。

（3月24日付掲載）

3カ月隔離でGDP1・8％減
隔離実施期間で変化とも

新型コロナウイルスのパンデミックにより、ブラジルの2020年GDP成長率は、0・4％減から1・8％減となる被害を被る見込み。経済省応用経済調査院（Ipea）によると、この落ち込みの幅は検疫隔離措置を実施する期間によって変化する。

仮に、検疫隔離措置がさらに1カ月（4月末まで）継続されれば、ブラジルのGDPの落ち込みは0・4％減になるという。Ipeaによると、この隔離措置がさらに2カ月（月末まで）継続されれば0・9％減、そしてさらに3カ月で1・8％減となる。

なおIpeaは2019年末にブラジルの2020年のGDP成長率について、2・3％増と予想していた。

Ipeaのジョゼー・ロナルド・デ・カストロ・ソウザ・ジュニオル・マクロ経済部門担当理事によると、今回のシミュレーションは、それぞれのシナリオに対して、発生する確率を割り当てることなく算出したとしている。その理由は、コロナウイルスの蔓延に関する今後の見通しが極めて不確実なためだという。

「検疫隔離措置が長期に及べば、その後の経済回復がより困難になるということだ。ただし、そのことは、感染拡大の速度を制限するための制限措置の必要性に対して、何らかの価値判断を与えることを意味しない」と同理事は付け加えた。

（3月31日付掲載）

B-side
経済ニュース速報 & データベース

・ コピー＆ペーストで報告書が作成可能な最新のビジネスニュースをいち早く入手したい
・ データベース化された情報を利用したい
・ 求めるニュースや話題を伝えてインタラクティブに情報を入手・交換したい

そんな「したい」を、B-Side Solutions がお手伝いいたします。

効率的に連携させて
効果的な利用が可能です

お問い合わせは、サイト運営会社の B-Side Solutions Ltda. へ。
Rua Apeninos, 665 1ºand. Sala3 Paraíso - São Paulo - SP Tel: (11) 3271-5680 http://b-side.brasilforum.com / b-side@brasilforum.com

B-side からのおしらせ
龍谷大学同窓会南米支部が発足

龍谷大学経済学部１期生（昭和 40 年卒）でパラグアイ在住の島崎允也（しまざき・）氏が発起人となり、さる６月 10 日、サンパウロ市内で、パラグアイとブラジルの龍谷大学 OB により龍谷大学同窓会南米支部が発会しました。。

南米支部は当面、社会学部２期生（平成５年卒）の美代賢志（みよ・けんじ）氏が世話人となり、調査・翻訳会社「B-side」の事務所を連絡先とします。OB リストへの登録を希望する方は kenji_miyo@hotmail.com までメールにて連絡ください。

クリッピング調査や翻訳もお任せください

ニッケイ俳壇（1061）

伊那　宏　選

まとまらぬ話ひとまず夜食出す　広田　ユキ
半世紀住みても異郷秋桜
秋声やダビデの星の墓行けば　富岡　絹子
作者註―『ダビデの星』はユダヤの印、イスラエルの国旗にも付いている。

亡き母の声の混れる秋の声　サンカルロス
〔「秋の声」とは大変抽象的な言葉である。耳で聞いたり身体で感じ取るそこはかとない気配を〝声〟として受け止める。もの淋しい秋なればこその幽玄な表現だ。そんな微妙な気配の中に、亡き母の声が混じって聞こえてきた作者の聴覚。忘れ得ぬ母への思いがあればこその幻聴であろうか。〈秋の声〉は紛れもない死者への愛惜の声である〕

猫鳴けば秋の声かと窓を見る　井上　人栄
若者の夜食横目にテレビ見る　セザリオ・ランジェ
秋桜別れはいつも突然で
老後とはおまけの人生秋桜
〔老後とは誰にもあるとは限らない。平均寿命の短かった時代にはまさに〝おまけ〟のようなものだった。かけがえのないものだった。だが長寿時代になった今は老後の概念も変わって、早死に以外の人には、第二の人生と言われるくらい充分すぎる老後の時間が用意されている。たとえおまけであっても無為に過ごさず、充実した老後でありたいと願う作者。こんな作者の願いに〈秋桜〉はうってつけの季語となった〕

秋出水橋とトラック一呑みに　原　はるえ
コロナウィルス集合禁止や人の秋
雨止んで庭竹ざわざわ秋の声
コロナウィルス外にも出れず秋思かな　玉田千代美

流れ星人を恋ふ時流れたり　サンパウロ
〔「恋う」とは誰かを思い慕うこと。誰かに思いを寄せ、会いたいとしきりに願うこと。そんな思いを心に込めて夜空の星を眺めると、星が流れて念願が叶うという。迷信だと一笑に伏すよりも、それを信じることの方がどんなにか麗しいことか。そのような心情を十七音に込めて、ずばりと言い切れる俳句のこの感嘆すべき力に、今、私は気づかされた〕

コスモスや風に揺られて人招く　林　とみ代
コスモスや眺めて居れば病消ゆ　サンパウロ
耐え忍ぶ女心や秋桜
目に見えぬ敵に怯ゆる秋の声
祭典の終へし広場や秋の声　鈴木　文子

秋の街マスク姿もちらほらと　サンパウロ
パンデミック世界揺るがす秋思かな
流星や離れ住む娘の幸祈り
〔今、世界を揺るがしている新型コロナウィルス。不要不急の外出は厳禁され、あらゆるエヴェントも中止という現況下、互いの訪問もままならぬ中、遠くに住む肉親の安否をただただ気づかうしかない。やり場のない不安と焦燥にかられ、祈ること しかない日々を句に託した心の綾模様。これはすべての人の思いでもあるのだ〕

仕事終え元気旺盛夜食かな　石井かず枝
街路にもコスモス咲いて立ち止まり
コスモスに心うばわれ時忘れ　ファッチマ・ド・スール　那須　千草

寝そびれて夜半に聞こゆる秋の声
ウチナンの夜食がうまし旅の宿
首里城の人まばらなる秋の声
〔昨年、国宝であり沖縄のシンボルである首里城が炎上した。県民はもとより国民の落胆は大きかった。かつて多くの観光客を集め賑わいを見せていた城も、今は閑散として人影もまばら。辺りに秋の侘びしげな気配が漂っている。前回よりの一連六句、作者は沖縄県出身の方かと思う。シンボルを失った喪失感に裏打ちされたこれら一連。心迫るものがある〕　ドラードス

コスモスは純真無垢に咲きほこる　伊藤みち子
コスモスは優しき香り空青く
長き路明るい未来竹の春　サンパウロ
絵手紙に描く秋茄子色冴えて　大野　宏江
竹伐ってキャンプファイア踊り出す
秋の風オリンピックで技競ふ　サンパウロ
鰯雲なかなかに来ぬバスを待つ　篠崎　路子
見舞ふ手を離さず友の秋深し
どの道もパン屋に通じ今朝の秋
〔かつて筆者が住んでいた聖市南部の住宅街も、坂の上にあったパン屋へ通じるいくつかの街路があった。朝パンを買いに行くのにどの道を選ぶかその時の天気や気分次第。近道あり、回り道あり。散歩がてらのいずれの道も徒歩。短い距離ながらも色々な発見があり楽しさがあった。本句を読んでふと四十年ほど前のことが思い出された。この句の作者も、パンを買いに行く途中できっと色々なことを観察しているのだなと共感を覚えたことである〕

友安否知る掲載句秋の空
秋灯下思案しどころピザ五片　サンパウロ
爽やかや尽きぬおしゃべり尽きてより　串間いつえ

だまされし新鮮さうな秋の鯖
〔鯖は夏の季語だが旬は秋。秋鯖の方が美味いのである。一日過ぎたらもう味が落ちると言われるように、鯖に限らず魚は新鮮さが命。当国では陸揚げされたばかりの新鮮なものを買うのは至難のこと。店頭に並べられているのはすべて〝ふるもの〟である。それを人為的な方法で新鮮に見せかけて売っている。知らずに買う人はだまされたと口惜しがるが、そこは商売の技。消費者はそういうことを心得て買うしかないのだ。怒ってよいのか笑ってよいのか、売り手と買い手の思惑がにじみ出た巧みな一句〕

秋声や寺の景観歩を誘ふ　田中美智子

コスモスや空家の庭は淋しかろ　サンパウロ
〔人の住まない空家の庭にコスモスが群生して咲いている。かつては住人の誰かが種を蒔いて育てていたものが、今では種がこぼれて自然増殖している。無心に咲きほこるコスモスを見て憐憫の情を抱いた作者。そう思うと余計に愛おしさが増す。立ち止まっていつまでも眺めていたいと思う。コスモスとはそんな花なのだ。座五の口語体表記に万感を込めた思いが伝わってくる好句〕

遠き日の受験勉強夜食かな
そぞろ寒野菜スープのことことと　バルジェン・G・パウリスタ　馬場園かね
山暮れて大樹降り出す秋の声
輝きの強まり峠秋灯し
コスモスを一茎手折り帰り道　太田　映子

膝を病み星飛ぶ頃は痛み消え
ふうふうと夜食の雑炊梅落す
退職す毎日日曜秋夕べ
娘の土産秋の七草染めし布
田舎道はかない秋の虹に遭ふ　サンパウロ
一瞬の願ひ戸惑ふ流れ星　平間　浩一
草原にそこはかとなき秋の声
コスモスや我真実の友を持ち
身に迫る影なき恐怖うそ寒し
〔〈影なき恐怖〉とは〝死〟を意味する言葉。おそらくコロナウィルスの脅威を詠んだものと思われるが、しかし、たとえば肉体的に病んでいる人は、この種の恐怖を日常的に感じ取っている場合もある。どちらにしても〈身に迫る〉という現実的な問題として、読む人に与えるインパクトは大きい。まさに〝人ごとならず〟、作者が本音で詠んでおられるのが分かる〕

ウィルスの世界に蔓延秋思濃し　須賀吐句志
コスモスや写生の子等に揺れやまず
コスモスや退屈なれば風を呼び
吹く風も流れる雲も秋めきし
コスモスに散歩のコース変えもして
コスモスや有るか無きかの風に揺れ　岩本　洋子
秋立つや老の心もはれやかに
爽やかな友の笑顔にはげまされ
ビーナスの笑顔謎めく宵闇に
鰯焼き猫にも分けて老の膳　佐々木友栄
久し振りに眼帯とれて秋高し
秋の雨つくろい物して卒寿媼
宿題の子に秋雨の窓をうつ
鰯雲迷える者の目を開く
〔〈迷える者〉とは凡夫のこと。大抵の人は己を凡夫と心得ているが、何か一つでも秀でるものがあればと考えあれこれと迷いの虜になっている。凡夫の凡夫たる所以であるが、ある時ふっと開眼するような心地に捉われることがある。文字通り〈迷える者の目を開く〉のである。〈鰯雲〉が適切に使われていて非凡な一句に仕上がった〕　ポンペイア

秋の雨一人になって思うこと　鹿島　和江
新米で少しはすすむ老の食
百日草母の花畑花絶えず
夜濯ぎや子育ての頃なつかしむ　ポンペイア
行く先はちゃんとあるらし渡り鳥　作野　敏子
数々の思い出しのぶ秋の雨
さわやかや笑みを交して行き過ぎし
恙なく一人暮らしや百日草　ポンペイア
秋高し牧に寝そべる牛の群　白石　幸子
渡り鳥長い旅路をごくろうさん
出来立てのコーヒーの香のさわやかに

コスモスや少しの風も楽しそう
〔やさしさを言葉にすればこんな句になる。少しの風にも揺れるコスモス。まるでなんでも可笑しげに笑いころげる少女たちのように愛くるしい仕草だ。コスモスを詠んだ句は数限りなくあるが、こんなにシンプルに屈託なく詠んだ句は珍しい。作者のやさしい目がなければ捉えられない句だ。コスモスも喜んでいる〕　サンタ・マリアーナ　斉藤　勝利

貧富の差なき日でありし展墓の日　椎野　薫
墓参り思い思いに偲びけり
久ぶりの雨に大豆の実りかな　コチア
コロナ来て町粛然と人もなく
見えぬ敵世界に満ちて手を洗え
誰見てもよけて通れとマスクつけ
信じても知らぬ顔して流行り風邪　ソロカバ
南瓜泥毎度のことだほっておけ
夜泣き癖つきし赤子や虎落笛
絶壁を離れし鳥や天高し
ドローンを尻目に飛び立つ渡り鳥　ロンドリーナ
一句成る心涼しく居る旅に
どこよりも風吹き渡るミーリョ畑
叶う夢叶わざる夢四ツ葉摘む
やり直し叶わぬ余生月涼し
健康な汗を忘れて月涼し
〔農作業に勤しんだり、子育てに流した若き頃の汗はとても健康な汗だった。苦にならなかった。流した汗は生活を支えてくれるものだった。流した分だけ財を成した。〈健康な汗〉を流さなくなったのはいつ頃からであろうか。現役を退き、子らに財を譲り、恵まれた余生の身になってからは汗を流すこともなくなった。汗とは無縁になった。これが人の一生なのだと悟ったとき、身が軽くなった。これでいいのだと自らを肯うことができた。今は後顧の憂いなく、好きな道に明け暮れるだけの吾が身。今宵の月は、まあ何と涼しげなこと〕　中川千江子

※

―お願い―

世界を窮地に追い込んでいる新型コロナウィルスによる社会活動の制約を受けて、邦字紙も印刷版を停止し電子版の配送のみとなりました。また、当俳壇への投句者の多くは句会活動を通して作品をお寄せに下さっていましたが、今や殆んどの句会が中止となり、加えて地方によっては郵便局も閉鎖され、投句が著しく減少しております。

場合によっては印刷版の発行が再開されるまでのしばらくの間、投句状態を見て俳壇の休止を考えたいと思います。不可抗力とは言えとても残念なことです。この際皆様には、しっかりと鋭気を養って再開の日に備えておいて下さるようお願い致します。

伊那　宏

◎投句送り先
HIROSHI INA
C.P.73, Aluminio-SP
CEP 18125-000
E-Mail = hiroshina771@gmail.com

ウイルス統計の国際歪曲

4月6日版

米政府は、今週が新型ウイルス感染の山場・最も苦しい1週間になると宣言した。米国の感染者数は世界一で、ニューヨークを中心に感染者や死者が急増している。

しかしこの急増は、必ずしも事態の急激な悪化を意味していない。というのは、米国ではウイルス感染に関する検査がものすごい勢いで行われているからだ。

米政府は、3月中旬からPCR検査を急増しており、今や総検査数は176万件で、世界的にダントツの第1位だ。

検査数が急増したら、必然的に感染者数が急増する。米国が世界一の感染者数なのは、事態が世界一悪いからでなく、検査数が世界一多いからにすぎない。統計数字は「米国の事態の悪さ」を示しているのでなく「多数検査という米国の政策」を示しているにすぎない。

このからくりは、ほとんど報じられていない。検査数の統計は、世界的にほとんど整備されていない。前提が国によってものすごく違う（積極検査する国がある一方で、日本のように検査せず隠す国も多い）のに、検査数と比較しないまま統計上の感染者数だけが独り歩きし、それをもとに「専門家」がしたり顔でテレビとかで解説している。国際政治的に、意図的な歪曲がありそうだ。

元々どの国も毎日何万人もが病死している

統計上の死者数も、別の意味で要注意だ。

世界的に、イタリアの致死率が非常に高い（感染者の12％が死亡、百万人あたり263人が死亡）。スペインも似たような数字だ。しかし、イタリアの死者の99％は、他の病気を持っている「持病」持ちで、死者のほとんどが高齢者だ。新型ウイルスの死者統計は「新型ウイルスが原因で死んだのかどうか」が重要だ。

今のイタリアのように医療体制が満杯で、院内感染が避けがたい状況だと、他の病気で入院している「死ぬ間際の免疫が低下している人」は、大半が新型ウイルスに感染した状態になる。

病院で死んだ人に対して死後のPCR検査を積極的にやると陽性がどんどん増え、それをそのままコロナ統計に載せると死者数や致死率がすごい数字になる。

どこの国でも毎日何万人もの人々が、いろんな病気で死んでいるのが昔からの日常だ。病院での死後検査のさじ加減を変えるだけで、死者統計をいかようにも操作できる。

死者統計にも裏がある

どの国が、どんなさじ加減でやっているか不確定だ。イタリアやスペインは以前から財政難で、いろんな口実を考えて、ドイツや北欧などEU内の財政緊縮が好きな諸国を説得・加圧して、EUとして財政難な諸国を支援する政策を出させようとしてきた。

リビアから地中海をわたって欧州に難民が流入した時も、イタリアは裏で難民（違法移民）の流入を加勢して難民危機を醸成し、危機を理由にEUがイタリアにカネを出す構図を作ろうとした。

同様の構図で今回、EUでは、ウイルス感染と都市閉鎖に苦しむ諸国に財政支援する案が出ている。ドイツがカネを出すのでなく、ユーロ圏全体としての「コロナ国債」を発行し、それを欧州中央銀行がQE（造幣）によって買い支える案も出ている。

これらを実現する際に、イタリアやスペインでウイルスの感染者と死者が急増し、医療崩壊がひどくなっているという構図がとても役に立つ。イタリアやスペインの政府は、コロナ統計にすごい数字を載せるため、意図的にどんどん死者を検査している疑いがある。

米国でも、ニューヨーク州でのコロナ死者の99％が他の病気を持っていたと指摘されている。米国も、トランプ政権の（おそらく隠れ多極主義的な）意図に基づいて事態の悪化が加速されているようなので「99％トリック」が使われているのだろう。

金融再崩壊など危機は延々と続く

日本は米国などと逆にコロナ検査をできるだけやらない方針だが、五輪の延期を決めた直後から、日々の感染者数が数日ごとに増えていくよう設定されてきた観がある。米国が「最も苦しい1週間」を宣言したのに連動するように、安倍首相はイメージだけ衝撃的な「非常事態宣言」を発しようとしている。

トランプが子分の安倍に「五輪を延期してオレと一緒にコロナ危機を醸成しろ」と命じたっぽい。トランプは米経済（中銀ネットワーク、金融界）をぶっ潰したいから壮絶なコロナ危機を扇動し始めている。

だが、安倍はもっと現実的で日本経済を大事にしたいので「非常事態を宣言しても行動の強制はできません。お店は目立たないように開け続けてもいいですよ」みたいな感じでやっている。

コロナ危機は今後も延々と続く。あと3か月ぐらい（6月末ぐらいまで）は閉鎖が続くのではないか。ワクチンの開発にかかる時間は18カ月でなく5～10年だ、という（常識的な）説も出てきている。来年になればワクチンができてすべて解決する、というのは幻想だ。

危機は長期化し、失業増、人々の生活苦がひどくなる。金融の再崩壊や銀行の取り付け騒ぎ、流通ルートの崩壊による食糧難と飢餓、暴動、州政府の財政破綻などの発生が予測される。

有事なので、事態が悪化しても現職の権力者であるトランプの人気は下がらない。危機は延々と続くのだから、日本は閉鎖をやるべきでない。日本は今の状況で、世界に比べたら十分に感染拡大が抑制されている。

中身のない非常事態宣言でマスコミを空騒ぎさせる現状ぐらいでちょうど良い。

集団免疫ができないように都市閉鎖をやらせる？

都市閉鎖について、「閉鎖をせずに人々の行動を放置すると、多くの人が無症状や軽症のまま感染が拡大して年内に集団免疫ができてしまい、コロナ危機が自然に解決してしまう。医薬品業界がせっかくワクチンを開発しても売れ行きが悪くなる。各国政府を支配するエリート層にとって、これは歓迎できない。だからエリート層が各国政府に強い圧力をかけ、世界中の大都市で閉鎖（ロックダウン）政策をやらせ、感染拡大つまり集団免疫への進行を阻止し、ワクチンが先に開発されるように仕向けている」といったある種の陰謀論が出てきた。

ビルゲイツがインタビューの中でうっかり示唆してしまった話だという。集団免疫を国策にしようとした英国のジョンソン首相はコロナに感染させられ、症状が悪化して入院し、死の瀬戸際に追いやられている。

この陰謀論をもとに日本政府の昨今の行動を見ると、妙に納得がいく。安倍は閉鎖をできるだけやりたくないので「感染爆発しそうだ。外出自粛せよ」と首都圏の人々を脅し、恐ろしげな非常事態を宣言しつつ、同時に「日本の今の法体系では、これ以上の強制はできません。閉鎖は無理です。75年前に今の日本の法体系を作ったのは米欧エリート様たちご自身ですよ。わが国の国是は対米従属なので、ご無理ごもっともですけどね」と言っているのでないか。

南アフリカで隔離される中国・武漢からの引揚者 [Foto: GCIS]

VENDA em BANCA

Nikkey Shimbun
ニッケイ新聞

ANO XXIII – Nº 5464 SÃO PAULO, QUARTA-FEIRA, 8 DE ABRIL DE 2020 R$ 5,00

TEMPLO XINTOISTA DO BRASIL
南米神宮
開運 沼矛八方祓
Rua Estado de Israel, 76 - Vila Clementino SP
Tel: (11) 5575-4783 – www.temploxintoista.org.br

特別寄稿

デカセギ定住化30周年
多文化共生時代を生きる日系経営者（2）

親子3代で『安心と信頼のイマイ』

祖父の今井政市が1922年に愛媛県から移住以来、2年後にはブラジル今井家創建100周年を迎える。日本人であり日系人ともいえる双方の良きDNAを継承する今井譲治（57歳）は、イマイグループ（本社・東京都新宿区）の社長を20年間勤めている。日本生まれでブラジル育ちの多文化共生時代を生きる新しい日本人像の先頭グループに立っている1人だ。同時に祖父の代から続く日本の良き精神文化も継承している。親子3代でイマイの信用とブランドを育み、「在日ブラジル人の方々が『Saudade（懐かしさ）』故郷を身近に感じられる『味』を安全に届けたい」、「在庫を切らさず『イマイブランド』を育てて来た事」、「当社の取り扱いブランドは全て各国のナンバーワンと契約している」と確かな会社の地盤と看板を築いてきた。

日伯間を信頼と絆で結ぶ今井家と譲治社長

1953年にサンパウロで創業以来、政市、悦太、譲治と今井家親子3代で信頼の『イマイブランド』を築いて67年。食の安心と安全を商いの原点に日本とブラジルを結ぶ食品総合商社として知られる。

特に日本に住んでいる日系人やブラジル人からの信用と評価は絶大で、いまは日本人の食卓にもイマイブランドが浸透してきた。日本に数多くあるブラジル食品取扱業者の中では抜きんでた存在感をもっている。

同時にブラジル今井家は祖父の今井政市が愛媛県から1922年に移住して以来、2年後には移住100周年を迎える。その子孫は六世を含めてブラジル今井家が100人以上でエンジニア、弁護士が多い（昔はブラジルナンバーワンの農機具メーカーであった初穂も経営）。

日本の今井家は今井譲治を当主に30人超。98年たったいまも日伯双方の今井家は心の絆でしっかり結ばれている、日伯間を結ぶシンボル的な存在だ。

2年後に移住100周年を迎える率直な感想を聞くと「祖父の時代からお世話になったブラジルに少しでも貢献出来たらと思います」と譲治はこう語った。

その譲治の家族は、妻子は東京、母・みどりと姉の恵美と美紀の3人は現在もサンパウロで生活しており、弟は2人で純は他社で働き、健太はイマイ本社の営業本部長として活躍をしている。

同社の顔でもある譲治は、1963年5月に東京・青山で生まれ、幼い頃から遊び場所は表参道だった。2023年は創業70周年と譲治の還暦祝いが重なる年だ。5人兄弟の長男でお坊ちゃんとして11歳までなに不自由なく育った。

しかしブラジル暮らしは苦労が続いた。サンパウロ郊外のアチバイアで暮らし、中学に入ると多くのブラジル人の子供がそうであるように昼間は自動車修理工場で働き、夜は中学に通う、という生活が続いた。

従ってこの時の関係もあり「友人はいまでも日本よりブラジル人が多い」という。サンパウロの高校入学後は下宿で一人暮らしをしながら、夜は高校に通い、昼間はショッピングセンターのおもちゃ屋の店長として働きながら、多くの社会勉強をしながら自分を磨き上げてきた。

22歳の時に父の悦太に口説かれ、日本に帰国してイマイの仕事を手伝い始めた。創業以来、一貫して日伯間の食品貿易をやっていた会社ゆえに、仕事をやり始めると言葉の壁や文化の壁もなく、「ブラジルが好きだったこともあり、やっている仕事が面白かった」とスムーズに会社に馴染んでいった。

当初は日本からブラジルへ出版物や日本酒、生活雑貨などを輸出販売していたが、1970年代からはブラジルから日本への食品輸入に貿易構造を転換した。経営者として剛腕でありキメの細かい商いもできる譲治はメキメキ頭角を現した、30歳でイマイの姉妹会社グローボ社長になり、37歳の若さでイマイ本社の社長に就任した。

譲治の日本帰国と前後するように1980年代後半からデカセギブームによる「ブラジル日系人という新たな市場」が誕生した。

1990年にはラテンアメリカの食品専門商社で日本ナンバーワンの時代を迎えた。当時は「毎日売上伝票の整理だけで徹夜状態が連日続いた」という。これ以降、ブラジル食品を取り扱う業者が激増した。

ピーク時には32万人いた日系ブラジル人。いま18万人が滞在しているが12万人は日本の永住権を持ち定住している。その頂点に立つのが、日本で事業を成功させた経営者といわれる。日本とブラジルという2つの祖国を持つ譲治も、日本のブラジル事業関係者で構成される在日ブラジル商業会議所の副会頭として、日伯間の架け橋で頑張っている。

食品総合商社『イマイ』（本社・東京都新宿区）と今井譲治社長

日本とブラジルを結んで67年

社長業でも2008年のリーマンショックを乗り越えた経営者だ。今年は社長就任20周年の節目の年を迎えており、経営の要諦を聞いた。

「ブラジルで育ち覚えた『Jogo de cintura』と呼ばれる『正面にまっすぐ進めないなら蛇行しながら攻める』、1＋1＝2のみではなく、1、又は3にもなる。会長・父親から教わった『信用をつくるのには時間がかかるが失うのは簡単だ』。「定期的にお客様を訪問して当社の商品の販売状況や、マーケットの状況を入手し、更に新しいヒントをもらう事、売り場を見るのが基本だ」。

商いを支える会社理念と社是社訓

イマイにとって最大の経営危機だったリーマンショックから12年。この危機を教訓にした新たな経営理念がある。

★「私たちは世界中の驚きと感動を日本の食卓に届け、豊かなライフスタイルを提案します」

★「私たちは一人一人がプロフェッショナルとして高い意識を持った行動をします」

★「私たちは全社員が幸福でモチベーション高く働ける企業を目指します」

毎日の朝礼時に社員全員が唱和している。

同時に冬の時代を乗り越えてきたのが、創業以来継承されている会社の社是である。

★「利潤なきところに繁栄なし」

★「開発なきところに発展なし」

★「協調なきところに幸福なし」

新たな経営理念とこの社是3カ条は、国内外の取引先からイマイの信用を倍加させている屋台骨でもある。父で2代目社長の故悦太からは、「信用第一」、「中小企業の社長は大変だ」と経営者のツボを伝授されているが、悦太の社長職で最大の功績は慧眼で後継者として譲治を育てたことだろう。

会社の現状と今後の経営課題

現在、売上高に占めるブラジル産品取扱比率と販売比率は全体の約50％。同時に日本の少子高齢化による在日外国人労働者の急増という日本の国際化を反映し、現在、ブラジル、アメリカ、スペイン、ポルトガル、ドイツ、タイ、ベトナムなどの国から約500品目の食品や飲料、調味料などを輸入販売し、商品の多様化が加速している。

現在の売れ筋商品は、ブラジル産お菓子のウェハース、スペイン産オリーブ、オリーブオイルの「ゴヤ」、ジュースなどの飲料がよく売れている。特に世界各国のトップブランドの輸入販売は譲治社長が手掛けた功績で、いまでは同社の看板商品になっている。

具体例を列挙してみよう。主要輸入国別の社名とトップブランドの商品名は

1）ブラジルから
＊MARILAN：ビスケット、ウェハース、菓子類
＊Santa Helena：ピーナッツ菓子
＊Velho Barreiro：カシャッサ
2）スペインから
＊GOYA：テーブルオリーブ、オリーブオイル
3）ドイツから
＊DEVELEY：ピクルス類、ソース類
4）フィリピンから
＊BOY BAWANG：コーンスナック
5）ベトナムから
＊MASAN/Chin-Su：ソース類、魚醤

主な取引先は、国分、三井食品、三菱食品、丸紅食品など多くの卸問屋を持ち、小売店もイオン、イトーヨーカドー、北のエース、ベイシアなど500社以上と、ブラジルなど多国籍の食文化ビジネスを軸に成長している。

同時に新規商品の開発努力や需要創出策など、絶えず価値創造型ビジネスに取り組んでおり、この分野でもパイオニア的な役割を担っているリーディング会社でもある。

お客様からイマイへの評価は前回取材した5年前と同様に、「リピーターが多い、商品の適正価格、美味しい、完璧な品質」で購入したお客様から感謝の手紙も多いが、新たに「新商品の多様化と商品鮮度の良さと確かさ」が加わった。

今年は社長在任20年になり、その感想は「何とか67年のイマイの事業を引き継ぎ実行してきた。100周年迄は無理と思うが80周年迄は現役で続けられるように頑張る次第」と決意を語った。

親時代とは異なる今後の課題は「世間の物事、考え方はそのスピードがますます速くなっている、乗り遅れないように情報の収集を行う事」と「ソーシャルネットワークをもっと活用して会社や商品の存在をPRして活動すること」の2点を挙げた。

親の代は日本の伝統的な精神文化が大きな価値基準の一つになっていたが、親から教わった『日本の心と精神』は仕事上及び生活上どう継承されているのか

仕事上：
＊大手企業が出来ない事をスピーディーにこなす。
＊社員に命令するだけではなくみずから活動する。
＊信用される迄は長年の年月がかかるが信用を落とすのは一瞬でおきる。

生活上：
＊出来るだけ日系人のイベントに参加していろいろな情報を得る。
＊インターネット、SNSなどの情報を得て〝次のその先〟を考える

イマイの各国別のトップブランド商品

会社存亡の危機を乗り越えた確かな経営力

2008年のリーマンショックは日本中で起こった出稼ぎ労働者の相次ぐ解雇と帰国で、32万人いたといわれる日系人は18万人へとほぼ半減し、これに伴いイマイの主力市場だった日系人の減少がそのままイマイの経営を直撃した。

具体的には、40人以上いた社員は15人に、業務用自動車も13台から5台に。物流センターも縮小統廃合、直営小売店やレストランの閉店など、2014年まで続いた。

この6年間はイマイが生きるか死ぬかの厳しい向かい風が吹き続けた。「情をかけ家族同様に仕事をしていた社員の解雇を通知する時が一番つらかった」と譲治。「ここ数年来、取り組んできた会社の再建計画は収益構造に転換できた」という。

「攻めるより守る方が難しい」といわれる3代目の社長業で、最も大事なことは何かを聞くと「私には幸いイマイの土台があったため、ゼロからのスタートではなく輸入のノウハウがあった。ブラジルに11年住んだ経験を活かし、ブラジル人が欲しがるファーストブランドの輸入品取扱いを目標としてきた。しかし独占体制は続かず、早くも数社のライバルが出来、競争が激しくなり、価格の暴落にも繋がっていることが悩みだ。『ビジネスは両社にプラスにならないと続かない』とすべての社員に言い聞かせている。お客様に損をさせたら二度と買ってくれない事が多く生じる、その為、消費者を始め各店舗の意見を取り入れるよう考えている」。

経営の初心は「いままで真面目に輸入業に取り組み、ブラジル専門商社として恥じない活動をして来た事」「各取引先に耳を傾け消費者が必要としている商品の開発、輸入をし適正価格で供給してきた事」という。

さらに今井は営業力がある新しい価値造成型の社長であり、絶えず海外出張を行い、自分の目で確かめた商品を市場に投入し、「社員の能力を活かし社員を育てる」力量がある。

商売上の悩みは「貿易会社ゆえに毎日の為替動向とデフレの問題は避けて通れないこと」、またこれからの商品開発は嗜好品とともに「家庭の食卓にはかかせない食品の開発を高めていきたい」。

イマイに7人いるブラジル人社員は「ポルトガル語の営業ができる事を始め、弊社の社員は日本語の読み書きも出来る者を採用している。皆、真面目に良く話しを聞き働いてくれて感謝している」という。現在はイマイファミリーとして16名の社員が働いている。

日伯間のためになにができるか

この仕事をやっていてよかったと思う時は、「祖父の時代からブラジルと縁があり、ブラジルと日本を繋ぐ仕事であることを誇りに思っている。日本からブラジルに移民された方々は言葉、習慣、労働、さらに食べ物などで苦労された。

当初は日本の食材を輸出していたが、現在はブラジルからいろいろな食品を輸入し在日ブラジル人の「元気」に繋がり、喜ばれていると思う。これからの日本は人口減少、人手不足などがさらに進み、外国人労働者をはじめ、いろいろな分野で彼らを必要としている。

現在はベトナム、フィリピンの食材も輸入しており、更にその他の国々に手を伸ばして「元気のもと」になるように考えている。

経営者の視点から親世代が持っていない強さについては「現在の取引先を通じて更なる可能性を見極める。ブラジルのみに頼らず、視野を広げてその他の国々にチャレンジする。現在のソーシャルネットワーク（SNS,facebook,Instagram,Amazonなど）を通じて商品のPRをして販売につなげる」。

在日ブラジル商業会議所の創立期から理事兼貿易部会長として活躍、現在は副会頭職。

日伯間の公的仕事に携わっている率直な感想は「どこまで私が役に立っているかわからないが、大好きなブラジルを日本人にアマゾン、サッカー、カーニバルだけではなく更なる『イメージアップ』をしたいと思う。経済大国であること、文化、ファッション、工業、エネルギーなど日本人には情報が足りないと思っている」。

今井の家庭

雅子夫人とは1996年に結婚し、富山県出身の良妻賢母。内助の功で今井をしっかり支え続けている。「妻に家のことを任せており、多いときは年間4カ月近く国内外出張に走り回る。いつもありがとう」。

子供は3人。長男：優治15歳、次男：伶治15歳、長女：理沙12歳。自分の子供にイマイの社長になることを期待しているかを聞くと「彼らも夢を持っていると思うので押しつけはしない。しかし実現できれば最高」と顔が和らいだ。

多文化共生時代の到来

譲治は少年期、青年期、成年期、壮年期と、年代を超えて多文化共生社会の中で生きてきた。取扱商品自体もブラジルの食品、お菓子、調味料、果汁、ジュース、酒類など、在日ブラジル人が生活で必要なものを提供してきた。

そして日本で働く146万人を超える外国人労働者の多国籍化に伴って、イマイも多様化する需要に対応し取扱商品の多様化と拡大を図り商品供給に努めている。

日本文化である同化型社会の地盤沈下と並行するように、多文化共生文化の広がりと深化が加速している。

そんないま、多文化共生社会を熟知する譲治社長のような国際型社会の中で生きている新しいタイプの日本人経営者が激増しており、譲治社長も多文化共生時代をリードするその一人といえよう。

（カンノエージェンシー代表　菅野 英明）